

平成 30 年第 4 回定例会 予算特別委員会（総務部）での質問と答弁内容

北海道議会議員 北 口 雄 幸

平成 30 年 12 月 10 日（月）開催

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p><b>一 防災航空隊について</b></p> <p><b>（一）防災航空隊の隊員の派遣元について</b></p> <p>私は先日、丘珠空港敷地内に配置をされています「北海道防災航空隊」を視察させていただきました。</p> <p>室長のお話もお伺いいたしましたが、道内各地から派遣されている隊員の皆さんの生の声をお聴きすることができ、防災航空隊及び防災ヘリの実態を把握することができました。また、新たな機体の導入も進められていることから、今回質問させていただくこととなったわけであります。</p> <p>そこでお伺いいたしますが、まず、防災航空隊には、8名の隊員で運用されておりますが、8名の派遣元や勤務体制についてお伺いをいたします。</p>	<p><b>【防災航空室長】</b></p> <p>広大な本道におきまして、道が行う転院搬送などの救急活動や山岳における救助活動、さらには、林野火災での消火活動を担うため、道内の各消防本部から、原則、3年を期間とし、毎年、8名の消防職員に道へ派遣いただいております。防災航空室には、隊員が常駐し、日中の交替制勤務4名以上と夜間の宿直勤務1名による体制を敷いているところでございます。</p>
<p><b>（二）共同運航に向けた体制について</b></p> <p>このように、道内の市町村から、あるいは一部事務組合から8名の隊員が派遣をされ、防災ヘリによる救助や救急活動等の業務をこなしているわけですが、2022年の4月までには、道警航空隊との共同運航により、24時間体制で道民の安心・安全を担うということになっております。その体制は、現在でも日勤後に当直業務があり、そのまま次の日の日勤について、いわゆる32時間の連続勤務となることもあり、働き方改革からいえば大きな問題になるという風に認識しているところでございます。いまは、隊員の使命感によって支えられているのが実態だという風に思いますが、それも限界があるのではないのでしょうか。</p> <p>特殊な業務であることから、一度に大人数を受け入れての訓練は危険も伴うことから、共同運航前から段階的に人員を増やし、2022年の4月までの道警の共同運航体制に備えるべきと考えますが、道の見解をお伺いいたします。</p> <p><b>【指摘】</b></p> <p>平成8年度、発足当時から24時間運航体制を前提に8名となっているということでもありますけども、この当時と今ではやっぱり条件が大きく違うと</p>	<p><b>【危機対策局長】</b></p> <p>道と市長会、町村会及び全国消防長会北海道支部から構成する「北海道消防防災ヘリコプター運航連絡協議会」での協議に基づいて、航空隊員は、平成8年の発足時から24時間運航体制を前提に、8名となっており、パイロット不足による平成26年度からの1日12時間を限度とします運航体制におきましても、同様の人員を維持しているところでございます。</p> <p>道といたしましては、今後の道警との24時間運航に備え、連絡協議会におきまして、消防防災ヘリの運航や航空隊員の派遣人数に関する事項など必要な体制等につきまして協議しているところでございます。</p>

<p>思います。</p> <p>例えば出動件数などについても大きく伸びておりますし、先ほどお話ししたとおり、働き方改革なども含めて考えたときに、この体制が本当に 8 名でいいのかどうなのか、これはちょっと後ほど、議論をさせていただきますけれども、しっかりと検討していただかなきゃいけない、このように思っています。</p>	
<p><b>(三) 訓練に対する備品について</b></p> <p>救助現場で隊員を降下させたり、負傷者を吊り上げたりする時に使用する「ホイスト」と呼ばれる機器がありますが、北海道では簡易型の代替えのものを使用して訓練しており、実際の防災ヘリに付いているものとは、若干異なると承知しています。</p> <p>訓練であっても本物のホイストを使い、微妙な操作を体に覚えさせることにより、現場で安心して救助活動ができるものであり、より実地に近い訓練を重ねることは極めて重要であることは論を持たないものでございます。</p> <p>他県では、実際に現場で使うものを訓練でも使用しており、道としても本物で訓練ができるよう体制を整えるべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p><b>【指摘】</b></p> <p>より実態に即し、充実した訓練を隊員の皆さんが命を懸けて活動するわけでありますから、そのことを理解して、やっぱり装備品についても、充実したものをお願いしたいと思います。</p>	<p><b>【防災航空室長】</b></p> <p>防災航空室内には、救助活動における必要な手順を確認するため訓練用の簡易なホイスト装置を設置しており、各隊員は、こうした基礎的な訓練を経て、山岳や河川敷に設定している訓練場所におきまして、実機を使用した実践的な訓練を行っているところでございます。</p> <p>出動時におきまして、隊員が安全に救急・救助活動を行うには、日頃の訓練が大変重要でありますことから、道では、ホイスト装置を使用した訓練も含め、より充実した訓練の実施につきまして、隊員や各消防本部のご意見はもとより、新たな消防防災ヘリの導入や国の通知などを踏まえまして、検討を行っているところでございます。</p>
<p><b>(四) 新機体導入について</b></p> <p>平成 29 年度の入札によりまして、新しいヘリの導入が決まっているという風に承知をしております。</p> <p>まず、納入時期とこの機種に至った経過についてお伺いをし、また、この新しい機体の特徴などについてお伺いをいたします。</p> <p><b>【指摘】</b></p> <p>聞くところによりますと、現在のはまなす 2 号よりは、機体も気持ちコンパクトになり、よりスピードが出る聞いておりますし、当然、新しい機体でありますから、安全性能は向上していると思います。</p>	<p><b>【防災航空室長】</b></p> <p>広大な本道におきまして、安全で確実な消防防災活動等が確保されるよう、現有機と同等以上の性能や安全性の確保を基本に仕様を示し、いわゆる政府調達の方針に基づいた一般競争入札を昨年 10 月に実施した結果、エアバス社の機種となったところでありまして、今年度中に納入されることとなっております。</p> <p>新たなヘリの主な特徴といたしましては、飛行中の急な天候悪化により、視界が不良となった場合にも安全に航行が出来る機能の強化が図られていることや巡航速度や最大航続距離において、優れており、安全で迅速な救急・救助活動ができるものと考えているところでございます。</p>

<p><b>(五) 新機体のデメリットについて</b></p> <p>新たに導入する機体は、現在のはまなす 2 号よりは、気持ちコンパクトになったこともあり、よりスピードがでると聞いておりますし、当然、新しい機体でありますから安全性能は向上していると思えます。一方、新機体のデメリットと申しますか、短所もあると承知しています。</p> <p>現在のヘリに比べ、とりわけ山岳救助ではパワーが若干弱いということもあり、山岳救助ではその救助活動範囲が狭まるのではというそのような懸念がありますが、この点についての認識をお伺いいたします。</p> <p>また、着陸装置がタイヤタイプやテールローターがダクトタイプとなったことにより、着陸できる場所が少なくなったと心配の声も聞いているところでありますが、どのような見解をお持ちなのかお聴きをいたします。</p>	<p><b>【防災航空室長】</b></p> <p>新たに導入するこのヘリは、宮城県、埼玉県、東京都、長崎県など、6つの県や9つの政令市におきまして、22機配備されており、消防防災ヘリとしては、全国で最も多く導入され、適切に運航されていると認識しているところでございます。</p> <p>現有機とは、機体の設計や装備なども異なることから、運航開始に向け、他県等での運用方法などを踏まえ、訓練等に取り組んでいく必要があると考えているところでございます。</p>
<p><b>(五-1) 着陸場所の調査等について</b></p> <p>まあ、それで明確に影響があると答えてはいませんが、タイヤタイプによって、若干、着陸した時に沈むなどの状況があり、着陸できる場所が少なくなるのではないかと聞いているところでございます。</p> <p>道内市町村でヘリポートを確保している訳ではありますが、今までのバー（スキッド）タイプとタイヤタイプにより、やはり私は影響がでると思えますので、新しい防災ヘリが着陸できる場所が、どういう場所かしっかりと把握しておかないと後々、現地の市町村の消防との困難なども生ずると思えますので、それをしっかりとした調査をすべきと考えますが見解をお伺いいたします。</p> <p><b>【指摘】</b></p> <p>市町村と連携して、しっかりとした調査をしていただくことを指摘しておきます。</p>	<p><b>【危機対策局長】</b></p> <p>道においては、これまでも、消防防災ヘリが使用する新たな離着陸場の登録や周辺環境の変化に伴う廃止など、離着陸の可否などについて、適宜、調査や確認などを行っているところであります。新たな機体の導入にあたりましても、離着陸の可否について、必要な調査、確認を行って参る考えであります。</p>
<p><b>(六) 従来機体の取扱について</b></p> <p>従来の機体である「はまなす 2 号」はそのまま残り、2機体制での運行ということで良いのかそのことについてお伺いいたします。</p> <p>また、新機体も含めて、耐空検査時の対応等についてもお伺いいたします。</p>	<p><b>【防災航空室長】</b></p> <p>現有機については、引き続き、道において消防防災ヘリとして使用する予定であり、道が所有する機体が 2 機となることにより、救急・救助等の活動はもとより、平時の訓練飛行や耐空検査等の日程を調整する上で、弾力的な運用が可能となるものと考えております。</p>
<p><b>(七) 機体の運用について</b></p> <p>2機体制になることによって、弾力的な運用が可</p>	<p><b>【防災航空室長】</b></p> <p>道が所有することとなる 2 機のヘリの運用にあ</p>

<p>能になるということですが、先ほどふれたとおり従来の機体と新しい機体では、やはり特徴が少し違うということもあります。隊員の皆さんが従来の機体は慣れているということもありますし、新しい機体については、巡航スピードや距離についても優れているという状況もありますので、それらの特徴似合わせて運航体制が必要ではないかと思えます。例えば、山岳救助については従来の機種を活用する。そして、患者の搬送などについては、新しいヘリを使っていく等々の工夫も必要だと思いますが、より適した機体を運航すべきだと思いますが見解をお伺いいたします。</p> <p><b>【指摘】</b></p> <p>是非とも、それぞれの特徴をいかした形で運用し、道民の皆さんの安心・安全を図ることは極めて大事なことです。そういった体制でお願いしたいと思えます。</p>	<p>たつては、法定の検査・点検期間等を踏まえ、各々の機体の特徴に十分留意するとともに、山岳救助業務を担う道警察など、他の関係機関と連携・協力の上、救急・救助活動に取り組んでいく必要があると考えているところでございます。</p>
<p><b>（八）防災航空隊の今後の体制について</b></p> <p>9月6日の北海道胆振東部地震の際、道防災ヘリは孤立者の救助や倒壊した家屋からの救出者の搬送、人員や物資の輸送など様々な活動を行っており、大規模災害時に大きな役割を果たしております。また、山岳遭難の救助や救急患者の搬送など、その機動性を生かした広域的な活動は広大な本道では必要不可欠なものとして承知しております。</p> <p>その活動の中心をなす防災航空隊の隊員は、道内の消防から派遣された少数精鋭の優秀な隊員であり、高い志を持って日々訓練に研鑽し、先の地震を初めとする困難な環境の元でも、命がけで救助、救急の任務に取り組み、道民の安全・安心に大きな役割を果たしています。</p> <p>道は、道警との共同運航により、24 運航体制を整備し、また新しい安全性の高い機体の導入などに取組んでおりますが、大規模な災害が多発する中、広大な北海道の道民の安全・安心を確保するためにも、防災航空隊の体制をより一層充実していくことが必要であります。</p> <p>道として、今後どのように取り組んでいこうと考えているのか、その見解をお伺いいたします。</p> <p><b>【指摘】</b></p> <p>残念ながら今年に入っても他県で防災ヘリの事故などがありました。やはり安全で隊員も含めて安</p>	<p><b>【危機管理監】</b></p> <p>離島を有し、そして広大な本道において、昼夜を問わない迅速な救急救助活動を行うためには、消防防災ヘリの担う役割は大きいものと考えておりますことから、道としては、高度な山岳救助や夜間の救急搬送などに関し豊富な経験を有し、かつ、計画的な人材の育成が可能な道警察との共同運航により、持続的な 24 時間運行体制の確立を図っていく必要があると考えているところであります。</p> <p>今後、進めていきます道警察との共同運航においては、操縦士 2 名体制を前提に、現在、操縦士の養成を行ってきております。こうした取組みにより、ヘリの安全運行の徹底を図りますとともに、防災航空隊員が活動しやすい訓練環境や体制について、関係者と十分に協議するなど、万全な運航体制を整えることにより、今後とも、道民の皆様の安全・安心の確保に努めてまいります。</p>

全で安心な体制の中で、道民の安全・安心を守るか  
ということは極めて大事なことだと思っています。  
道警と連携して 24 時間体制で道民の命を守るとい  
うことは当然大事なことでありますが、それを運航  
する隊員の体制というのをしっかり整備をしてい  
ただくことも必要だと思っております。

活動し易い訓練環境や体制について関係者と十分  
協議をするというふうに危機管理監から答弁を  
いただきました。しっかりと隊員の声聞いて、そ  
して、関係する皆さんの声を聴いて、安全な体制を  
作っていただきますようお願いし、質問を終わ  
ります。